さかまた

鴨川シーワールド NO. 59

シーワールドのアニマル達

●カリフォルニアアシカ「ホープ」と「アン」

ロッキーアイランドで、お客様に自慢のパフォーマンスを披露しているのがカリフォルニアアシカです。当館では現在、17頭を飼育していますが、その中には多くの観客の前でパフォーマンスを行い、楽しませてくれた往年のスターがいます。1979年に当館へやって来て23年になるオスの「ホープ」とメスの「アン」で、現在は2頭共「アシカ・アザラシの海」でのんびりと暮らしています。パフォーマンスに出ていた頃の「ホープ」は、飽きっぽいところがあり、パフォーマンス中に他のアシカにちょっかいを出したり、勝手にプールで泳ぎまわったりしてトレーナーを困らせることがよくありました。また、スリムな体型で、毎日たくさんのエサを食べてもなかなか太らず、係員を心配させました。しかし、今では立派な体格で、迫力のある姿を披露しています。「ホープ」とは対照的に、「アン」は小柄な体を生かし、スピードのある細かな動作（演技）をたくさん行い、アシカの持ち味である、物を鼻先に乗せてバランスをとる種目が得意で、パフォーマンスで大活躍しました。今は2頭とも、通路の向う側でパフォーマンスで活躍する後輩たちに送られるたくさんの拍手を聞ききながら、活躍していた頃の自分を思い出しているかもしれません。

（中野）

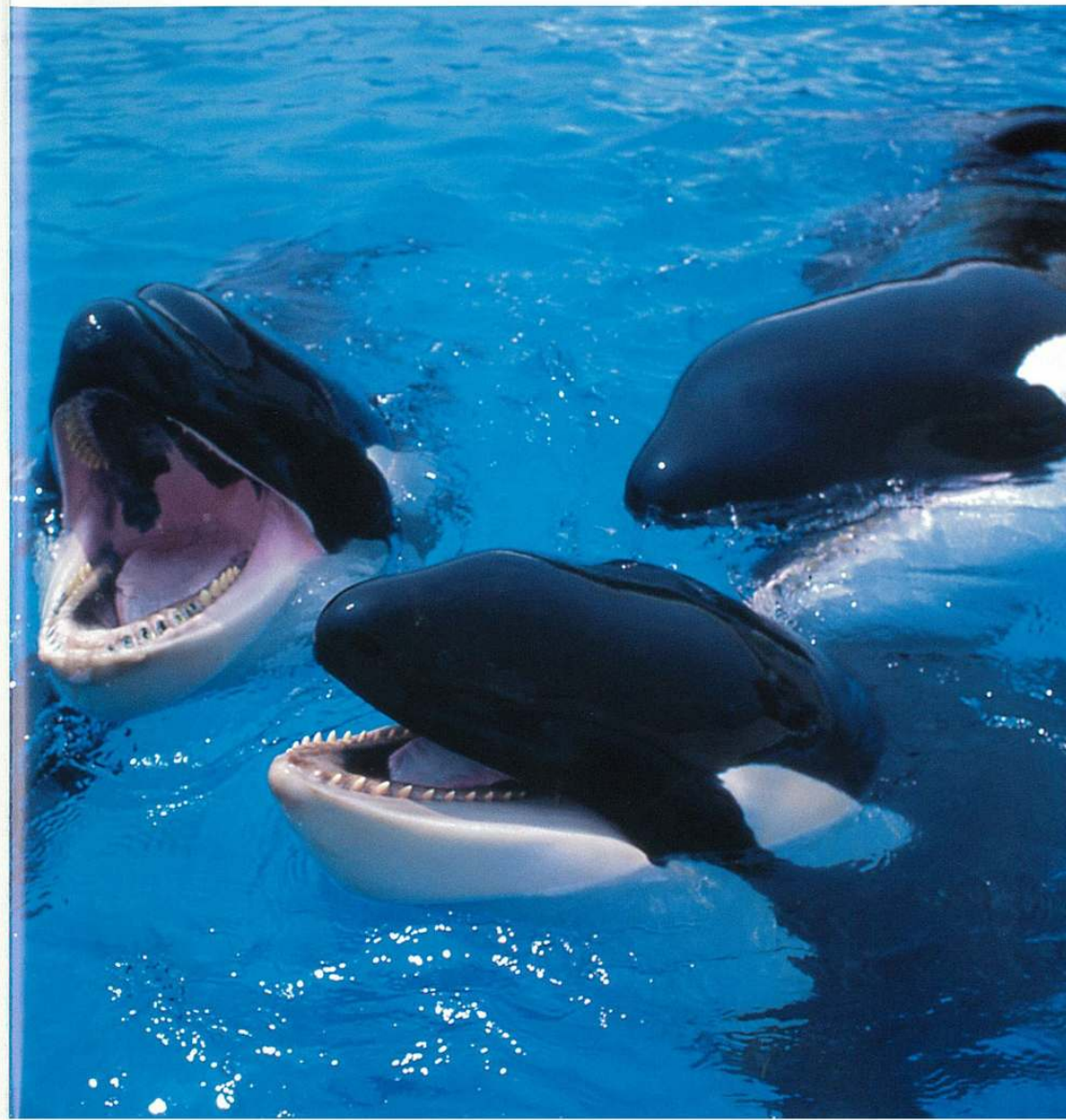
●ウマヅラハギ

ウマヅラハギは、北海道以南の沿岸域に広く生息し、鴨川近辺でもよく見られる体長30cmほどのカワハギの仲間です。名前の通り馬面をしているウマヅラハギは、房総ではゲンパと呼ばれ「カワハギの干物」として土産物店で売られています。当館では、昭和45年の開館時から沿岸の魚として展示していますが、体色が大変地味なため水槽の中では、あまり目立たない魚でした。しかし今年の干支、「午」（うま）にちなみ、「2002年、干支の魚」としてオオウミウマ、バフンウニと共に正月の特別展示を行ったところ一躍脚光を浴び、お正月の記念撮影の背景としてもたいへん人気を集めました。お客様からは、「おもしろい」「変な顔」との声がよく聞かれました。中には、「昔からいましたか？」との質問を受けることもあり、「以前から常設水槽で展示していました」と答えると「へー、何回も来てるけど気がつかなかった」と言われるほど普段は地味な魚です。水槽には目立たない魚がたくさんいますが、今回のウマヅラハギの様に、じっくり見るとそれぞれ個性的で興味がわいてくることでしょう。とは言っても、ウマヅラハギが再び脚光を浴びるのは12年後かも知れません

（大澤）

▲カリフォルニアアシカ *Zalophus californianus*

▲ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus*

さかまた No.59 （禁無断転載）

編集・発行 鴨川シーワールド

〒296-0041 千葉県鴨川市東町 1464－18

☎(0470)92-2121

発行日 平成14年7月

http://www.kamogawa-seaworld.jp

楽しもう、動物とのふれあいプログラム

▲ときめき体験「ファンタジーベルーガ」

休日の朝、動物たちはいつものようにその日最初のエサをもらい空腹を満たし終えた頃、園内案内所ではディスカバリーガイダンスのチケットを求めるお客様が行列を作りはじめます。動物たちに間近で接することができるディスカバリーガイダンスは、パフォーマンスだけでは伝えきれない動物の魅力を知ってもらうことができる、お客様だけでなく飼育係やトレーナーにとっても有意義な展示です。今回はこのディスカバリーガイダンスを中心に、動物達とのふれあいを通じて、シーワールドを楽しむプログラムを紹介します。

■発見の楽しみ―ディスカバリーガイダンス

「イルカの体はどんなさわりごこち?」、「シャチの目はどこにあるの?」私達はよくこんな質問を受けます。お客様にはパフォーマンスを見てもわからない疑問がたくさんあります。こういった疑問に、動物とのふれあい体験を通してお客様自身が答えを見つけることができるのがディスカバリーガイダンスです。

▲ディスカバリーガイダンス「シャチのキスプレゼント」

動物にふれたり魚にエサを与えてみるといった体験を通して、お客様に動物たちのことを良く知っていただこうと、ディスカバリーガイダンスは1985年に鴨川シーワールド開園15周年記念企画として始まりました。当時はトレーナーが参加者を選んでいましたが、定員以上に希望者が続出し、選ばれなかったお客様から不満の声がよく聞かれ、トレーナーを困らせていました。その後、ディスカバリーガイダンスは種類も増え内容の充実が図られました。また、トレーナーを困らせていた参加方法はチケット購入制に変更され、より公平な利用方法へと改善されました。人なつこそうな顔をしたイルカとの記念写真、熱烈なシャチのキス、自分が差し出したエサに魚が群がる満足感、何とも言えないベルーガの感触、アシカと笑顔比べなど、お好みの感動を体験してみてください。

■囲いの外へ―アニマアウトガイド

あたりまえの話ですが、お客様と動物達とはフェンスやガラス面で隔てられています。これは、お客様

▲ディスカバリーガイダンス「魚とのコミュニケーションタイム」

と動物両方の安全を確保して展示を行うためです。動物がたくさんのお客様のいる園内を行き交うことは通常ではありませんが、種類によっては囲いから外へ出すことのできる動物がいます。動物園ではポニーなどが飼育係と一緒に散歩にやって来たりしますが、シーワールドではペリカンが散歩をしています。アニマアウトガイドと名付けられたこのプログラムは、飼育係がペリカンと一緒に園内を散歩しながら、ペリカンに関する解説を行います。突然ペリカンと出くわしたお客様は一様にびっくりして立ち止まり、ペリカン達が通り過ぎるのをながめていますが、そのあとにはふたつの忘れ物が‥。ひとつはペリカンの羽、これは持ち帰っていただいて結構ですが、もうひとつの忘れ物(ペリカンの糞)にはご注意を!

▲ペリカンの散歩のあとには忘れ物が…

このアニマアウトガイドには、毎年冬になるとオウサマペンギンの散歩が加わります。南極周辺が生息域のため、普段は冷房のきいた室内で飼育されていてガラス越しにしか見ることができませんが、気温の下がる12月から2月に限り園内に散歩に出てきます。かわいいヨチヨチ歩きを間近でご覧になってはいかがでしょうか。

■新しいふれあい

シーワールド開園25周年記念として1995年11月の1ヶ月間、トップブーツ(胴長)に着替え、水深を浅くしたイルカの飼育プールに入ってふれあいを楽しむ「ラブリードルフィン」が実施されました。映像や写真でイルカを目にすることがめずらしくなくなり、実物を見るだけではなくもっと親しくふれあいたいと感じているお客様も多く、好評を得ました。「ラブリードルフィン」は、1998年7月ロッキーワールドのオープンに伴い、新設された「イルカの海」でディスカバリーガイダンスに加えられました。遊び好きのイルカ達はお客様を待ちかまえていて、プールに入るとすぐに足元に近寄ってきてくれます。体に触れたり、合図を出してごほうびのエサを与えたりする中で見せてくれるイルカの仕草を通し、イルカ達をより身近に感じることができる楽しい時間が過ごせます。「ラブリードルフィン」での一番の注意点は、いたずら好きなイルカに足を取られて転ばないことです。浅いプールとはいえしりもちをついただけでトップブーツの中は水浸しになってしまいます。実はお客様よりはるかに多く転んでいるのは、他ならぬトレーナーなのです。

▲ラブリードルフィン

「ラブリードルフィン」と同じように、イルカやシャチのいるプールに入ってふれあいを楽しむプログラムに「ときめき体験」があります。「ときめき体験」はこれまではトレーナーでなければ経験できなかった距離と目線で動物に接することができる、トレーナー体験とも言えるプログラムです。イルカの背ビレにつかまり全速力でプールを1周、柔らかな体をしたベルーガとスキンシップを楽しむ、大きなシャチをサイン一つで意のままに動かすなど、めったに体験できない内容が目白押しです。季節は6月から10月までの限定ですが、夏休み中の予約は受付開始直後に早々と埋まってしまうほどの人気です。このように動物とのより親密なふれあいを求めるお客様の声は、野生のクジラをボートに乗ってながめるホエールウオッチングに続いて、海でイルカと一緒に泳ぐドルフィンスイムの人気が高まってきたのと流れを同じくしています。人にも動物にも安全で楽しいふれあいの場を提供することができる水族館の参加・体験展示は、これからもますます期待されてくることでしょう。そんな期待に応えられるよう新たなプログラム作りに挑戦して行きたいと思います。

(勝俣浩)

トピックス

▲トレーナーにあまえる「ララ」

1998年と昨年（2001年）に生まれたシャチの「ラビー」と「ララ」は、元気いっぱいで順調に成長しています。満４歳になったラビーは、体長4.1m、体重1,100kgにも成長し、今ではパフォーマンスメンバーの一員としてダイナミックな演技を披露して人気を集めています。また、トレーナーがプールサイドにいると、体を寄せてきたり、ガラス越しにお客様と遊ぶことが多く見られるなど好奇心も旺盛です。隣のサブプールで母親「ステラ」と父親「ビンゴ」のそばでおてんばぶりを発揮しているのは今年2月8日で満1歳になったララです。現在、体長3.1m、体重550kgにも成長し、母親からの授乳は続いているものの1日に16kgものエサを食べています。母親に寄り添って泳いでいる事が多かったララですが、エサを食べるようになってからは、トレーナーを見かけると胸びれを振って追いかけてきたり、口に含んだ水をかけたりしてトレーナーの気を引こうとします。また、１頭での遊びも増えてきて、親のジャンプの真似をしたり、隣のプールを覗いたり、速く泳いで波に乗ってみたりと元気一杯です。

鴨川シーワールドで生まれたシャチ姉妹、「ラビー」と「ララ」の今後の成長を応援して下さい。

（山田千）

▲ラビーはパフォーマンスで活躍中

▲特設ステージからはしゃぐ「ララ」の姿がみえる

▲モンタン

多くの入館者の人気を集めていた巨大なマンボウ「モンタン」（メス）が2002年１月30日に死亡しました。

マンボウは広い外洋を住み家としていて成長すると体長が3mを超えますが、生態についてはほとんど解っていない謎の多い魚です。どことなく愛嬌のある形をしたマンボウは、水族館ではとても人気のある魚で、昔から多くの水族館で飼育が試みられていますが、飼育が困難で飼育係の苦労が絶えません。マンボウは硬いものが苦手なため、エビの殻をむいてやわらかい練り餌にしたり、水温の変化に敏感なため、飼育水槽の水温を一定に保ったり、水槽の壁に衝突して傷がつかないように防護フェンスを張ったりする他に、同居生物にも気を使います。これまでに1,000日以上飼育されたマンボウはわずか5尾で、飼育世界記録は当館の「クーキー」が1990年に樹立した2,993日です。

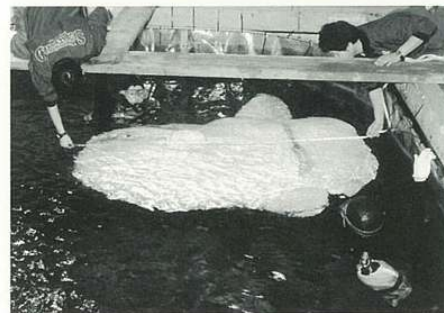
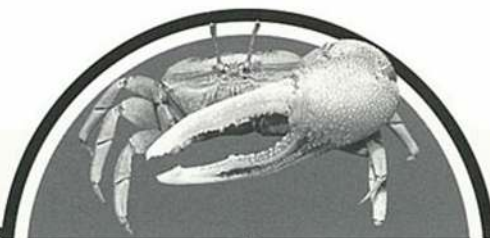
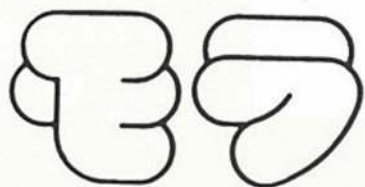
▲「モンタン」の体長測定

長期飼育されたマンボウ

愛称	性別	全長(cm)	体重(kg)	飼育期間(日)	飼育園館	達成年	備考
モンタン	メス	193	496	1,556	鴨川シーワールド	2002	飼育下世界最大
クーキー	オス	187	325	2,993	鴨川シーワールド	1990	飼育世界記録
オーヤン	メス	176	234	2,016	マリンピア松島水族館	2000	
ノロン	?	162	220	1,538	鴨川シーワールド	1986	放流
ー	?	152	?	971	高知県足摺海洋館	1994	
ユーユー	メス	123	79	1,379	マリンピア松島水族館	1986	
ノンノン	メス	122	58	1,782	マリンピア松島水族館	1994	
ユーラン	メス	109	56	965	鴨川シーワールド	1981	
ブクブク	メス	107	68	788	マリンピア松島水族館	1980	
ノンキー	オス	95	43	971	鴨川シーワールド	1981	
97−02	?	?	400	422	モントレー湾水族館（米国）	1998	放流

「モンタン」は1997年10月27日に房総沖の定置網で捕獲されました。当初は体長74cm、体重約20kgでしたが、これまで飼育したマンボウに比べて成長が速く、飼育5年目の死亡時の大きさは体長193cm、体重496kgにも成長していました。マンボウの飼育経験がある水族館に確認したところ、水族館で飼育したマンボウの中では「モンタン」が世界最大と思われます。

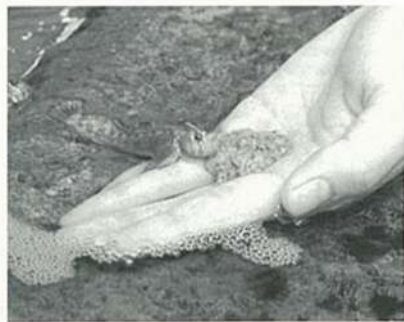
「モンタン」の死後新たに飼育が始まった小さなマンボウを見て、いつの日か体長3mを超える巨大マンボウの雄姿を…と夢を膨らませています。

（中坪）

●大感激、イルカの出産

1月18日午後2時20分、多くの観客や飼育スタッフが見守る中、バンドウイルカの赤ちゃんが誕生しました。母親「リンクス」はシーワールドに来てから初めての出産で、出産には約3時間かかりましたが、間近で見ていたお客様からは感動の声があがりました。この出産の様子はビデオ放映されていて、いつもお客様が熱心に見入っています。赤ちゃんイルカは生まれた時、体長130cm、体重20kg程でしたが、3ヶ月後には体長160cm、体重60kg程までに成長しています。また、4月25日には応募総数15,746通の中から「リキ」という愛称がつき、その名の通りたくましくジャンプするなど、やんちゃぶりを発揮しています。

（山田）

●手の平で食事、タマカエルウオ

トロピカルアイランドでは、エサの時間になると水から上がってきて係員の手の平からエサを食べるタマカエルウオのかわいい姿を見ることができます。タマカエルウオは小笠原や南西諸島の潮間帯で見られる体長10㎝ほどのカエルウオの仲間です。普段は水の中に入ることはほとんどなく湿った岩の上で海藻（ケイ藻）を食べて暮らしています。とても臆病で、飼育を始めた頃は岩陰に隠れて姿を見せることはめったにありませんでしたが、今では新しい住み家にもすっかり慣れて、係員の手の平でピョコピョコ跳ねまわったりエサを食べたりする、ほほえましい姿を見ることができます。

（古市）

●福笑いコンテスト

「笑う門には福が来る」、1年を明るく楽しく笑って過ごしてもらおうと、2月1日から28日までの1ヶ月間、笑うアシカで有名な「マンディー」との笑顔コンテストを実施しました。マンディーとの記念写真が応募作品になるこのコンテストでは、参加者はマンディーに負けない笑顔でカメラに収まっていました。家族全員でのにっこり笑顔やお母さんと子どものほほえましい写真など214点もの笑顔写真が集まり、審査の結果、石黒さん（東京都）の作品が「ベストスマイル笑」に選ばれました。

（川名）

●好評 DDCの催し物

昨年の暮れから今年の春にかけて、ドルフィンドリームクラブ事務局では会員を対象に、「お子さまクリスマスパーティー」、「春のジュニアトレーナー体験」、「トロピカルアイランドナイトステイ」の3つの催し物を行いました。今回初めて行ったクリスマスパーティーでは、110名もの参加者がありました。海獣のトレーナーや魚類飼育員をまじえた楽しい食事の後は、着ぐるみ「オルタン」とのジャンケン大会や、ウルトラクイズで子供も大人も大いに盛り上がりました。これからも楽しいプログラムを計画していますのでどうぞご期待下さい。

（関）